

中部森林管理局 森林技術支援センター ～森林管理技術を学ぶ～

小川長洞複層林施業指標林

【場所】小川長洞国有林 1106 ㄏ 林小班【面積】1.27ha

【概要】明治28年度 ヒノキ植栽 昭和50年 複層伐 本数率71%

スギ、ヒノキ植栽(3,500本/ha)

(下刈、ツル切、除伐、除伐2類、枝打)

平成7年 受光伐本数率41%

【目的】昭和50年、非皆伐施業により公益的機能の維持を図りつつ、(1)ヒノキ大径材生産、(2)東濃ヒノキ優良材生産を行い、併せて下木の生育状況、伐採搬出による下木の損傷状況を観察し、複層林施業の基礎資料とすることを目的として設定し、常時2段林の指標林として維持・管理を行っています。

【問い合わせ先】中部森林管理局 岐阜県下呂市森876-1

森林技術・支援センター

【位置図】



TEL 0576(25)30

協力

中部森林管理局

森林技術支援センター

実施日

平成27年8月10日

場所

岐阜県下呂市

対象

環境科学科 3年生

課題研究班

複層林施業指標林（上木120年生、
下木38年生）でのH26年度本数調
整伐実施後の稚樹発生状況調査の様子



ヒノキ間伐実験林

間伐率の異なるプロットを並列させ、植栽木の生育状況、気象書の影響、下層植生の相違など、間伐の効果について観察しています。



定性間伐実験林

ヒノキ間伐実験林

◎定性間伐区

間伐率20%・30%・40%実施の状況等。

◎列状間伐区

1伐2残、1伐3残、2伐4残実施の状況等。

以上の間伐の実施状況やその効果と低コスト林業の課題について説明をいただきました。



架線集材装置の説明や点検のついで説明をいただきました。
集材機（模型）シミュレーション操作の様子

